

5歳児 保育指導案

尾道市立木ノ庄東幼稚園

- 1 日 時 令和元年11月13日(水)
- 2 場 所 幼稚園保育室・園庭・わくわく広場
- 3 学 級 5歳児 ゆり組 30名(男児18名 女児12名)
- 4 幼児の姿と教師の願い

(1) 幼児の姿

①クラス全体の子供の姿

進級当初は「憧れの年長になった！」という思いが強く、当番活動を意欲的にし、異年齢児に優しく関わり一緒に遊び、お世話をすることを喜んでいて、9月末には、運動会を年長児としてリードし、みんなでやり遂げたことで、自信をつけ、力を合わせる楽しさを味わっている。しかし、友達関係が固定化しその中で自分の思いを上手く表現できなかったり、イメージが共有しづらく、思いのすれ違い等が起こり、遊びが続きにくかったりする姿があった。自分が自信のないことや思い通りにいかないことを避ける姿もある。遊びや生活の中で一人一人の良さに気付けるような遊びの環境構成や援助を行っている。また、一人一人の良さや子供同士で互いの思いに気付けるように遊びの振りかえりを工夫することで、自分の思いを言葉で伝える事や友達の思いを知りたいという気持ちが芽生えてきている。

②遊びにおける子供の姿(本日の遊びに至るまでの経過)

運動会の経験を基にクラスの友達と共通の目的に向かって自分たちで遊びを進める楽しさを味わってほしいと考え、11月中旬に年少・年中児を『わくわくランド』に招待することを子供たちに投げかけた。子供たちからは『映画館』『いろいろやさん』『マリオカート』『太鼓の達人』『ガチャガチャ』『ドングリアスレチック』の遊びがあがった。それは、子供が作った遊びや自分たちが休日に家族で体験した遊びであった。その中で自分が興味のある遊びを決めチームを作り楽しい遊びになるよう毎日話し合いをしながら計画を立て遊びを進めていったが暫くは自分だけのイメージで作る姿や自分のチームではない遊びをする姿が多かった。2週間くらい経つとチームとしての自覚が芽生え、チームの友達と相談をしながら遊びを進めたり、「どうやったらもっと面白くなるだろう？」などの工夫をしたりする姿が増えてきている。しかし、遊びが進むにつれ必要な物を作ることに一生懸命になり、遊びが停滞し戸外で発散して遊ぶことが増え、『わくわくランド』の遊びに興味をもたなくなる場面もたくさんあった。子供のつぶやきや子供の気持ちに寄り添うことがおろそかになり、環境構成が不十分になっていた。そのことに気づき教師も子供と一緒に試行錯誤を重ねながら遊びの環境を作っていくことで、遊びが深まり『わくわくランド』を楽しみにする気持ちが高まってきている。

戸外では、固定遊具での遊園地ごっこやドッジボールを楽しみ、ドッジボールでは投げ方やよけ方を遊びながら考えたり、チーム分けや内野・外野決め、ルール変更など、友達と話をしたりして楽しみながら遊んでいる。

遊びの中で困難なことを乗り越える力や一人ではできないことが実現できる喜びや、友達のよさに気付くこと、友達と力を合わせる楽しさなどを感じていっている。

(2) 教師の願い

友達と思いや考えを伝え合い、友達と折り合いをつけながら一緒に考えていくとより遊びが面白くなることに気づき、友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じている。子供達がイメージする遊びの実現のために教師は教材の工夫や環境構成、適切な援助を行っていききたい。

身近な自然物を遊びに取り入れ、工夫して遊びに取り入れて遊ぶ中での子供なりの発見や気づきに共感していききたい。

友達と体を動かして遊ぶ中で友達と一緒に体を動かして遊ぶ面白さを感じられるよう、子供たちの考えに共感したり、自分たちで遊びを進める姿を見守ったりしていききたい。